

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アリス甲子園の理念や方針をスタッフが常に意識するように心がけ、5の付く日は申し送りの際、復唱し日々のケアにつなげている	事業所独自のものをつくり、その内容を、より具体的に表現したものを、管理者と職員が共有し日々のケアに生かしている。	現状を維持していただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々、朝・夕に地域に散歩に出かけ、地域の方々と会話や挨拶を交わしたり、交流を持っている。地域の行事(夏祭り・餅つき)などにも出かけて行っている。	事業所開設二年目に入ったばかりで、多くはないが努力している。	出かけることと共に来訪してもらえる催し等を計画してみる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	9/18、グループホーム主催で、地域の民生委員さん中心に認知症サポーター養成講座を行った。今後も地域に向けて、認知症の方の情報など発信していく。介護相談なども、居宅と連携して行っていく。グループホーム便りに介護ワンポイントアドバイスなども載せている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H24/5/30より2ヶ月に1回、第4水曜日10:00～11:00、家族様代表、民生委員、市の職員、他グループホーム代表者、アリス甲子園施設長、グループホーム管理者の推進委員にて開催をしている。運営状況や日々の取り組みなどの報告と共に皆様から、ご提供や質問を受け、日々のケアに取り入れていくようにしている。	初年度から運営推進会議を実施、家族様の声を吸い上げることができるようにしている。また、日常の写真やスライドを利用し、映像で観てもらえるよう工夫もされている。それを受け、ご家族とスタッフとの話し合いも実施されている。	家族会の発足を提案予定にしている。家族同志の交流を踏まえ、職員との交流を温め、風通しのよい関係を作ってほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設以来、市役所に利用者の介護認定や介護保険制度について相談や確認を取るようにしている。運営推進会議の議事録の報告を持参し、連携を取るようにしている。	開設後1年ということで、市とは頻繁に連絡を取っている。また、提案等は積極的に取り入れている。	当初の関係を続けて疎遠にならないように。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束をしている方はいない。玄関施錠に関しては安全性から、現在は施錠している。なお、中庭など敷地内は自由に入出入りできるようにしている。	身体的拘束はされていない。玄関一ヶ所のみ施錠しているが安全のため止むを得ない。	各個室のベランダへは施錠せず、敷地内は出入りできるので、このまま継続で。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を年会計画に取り入れ、11月29日(木)に研修を行った。日々のケアにおいて、不適切ケアにも注意をし、気にかかるところは不適切ケアにならないようにスタッフ間で話し合い、改善するようにしている。	虐待防止の徹底がはかられている。研修などを行い管理職や職員は常に意識を持ってケアに当たっている。	今後も常に意識を持ってケアして下さい。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、それらを活用 できるよう支援している	施設内研修を年会計画に取り入れ、11月29日(木)に研修を 行った。現在日常生活自立支援事業や成年後見人制度を 利用を必要とされている方がおられないので、活用できるよ うに支援はしていない。敷地内同法人には、成年後見人制 度を活用している方はおられ関係機関とは挨拶をし連携し ている。	この一年で一回、研修を行い学んでいる。まだ活 用できる機会はない。	今後も定期的に学ぶ機会を設ける。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	入所前に一度ご説明し、入所の際に契約するときに再度ご 説明し、ご理解を図っている。ご質問・疑問点などのお尋ね には必ず返答している。入居後も適宜ご相談に応じること は常に伝えている。	十分な説明はできている。利用者や家族も理解し トラブルは生じていない。	今後の入居者にも現在のような姿勢で。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月ごと開催し、ご家族様にも参加して もらいご意見を賜り、生かせるように心がけている。また、家 族交流会なども企画し、グループホーム以外の職員にも参 加してもらって、アンケートを行った。	開設後1年ということもあり、利用者や家族の意見 はよく反映されている。	今後の入居者にも現在のような姿勢で。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1度は会議を設け、職員より必要な物品や運営に 関する意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように取り 組んでいる。	年数が短い分、トップダウン方式になりがちであ る。管理者が職員を指導しているのが現状。(週1 回の職員とのミーティング時に、入居者の個性を 尊重していくことを確認し合っている行為は、職員の 次ぎのステップアップにつながる。)	2年目以降が大切な時期となってくる。日常 的に職員の提案を受け入れやすい雰囲気 を作る。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	管理者は、自己評価チェックシートを下に、半期に1度は面 接を行い、各自がスキルアップを目指して仕事に取り組め るように目標設定し、職場環境・条件などの整備についても 希望や意向を確認し、代表者に報告している。代表者は、 これらや勤務状況に応じ職場環境や条件の整備に努めて いる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	研修の年間計画を作成し、施設内外の研修に参加させて いる。また個々の経験や能力に合わせ、向上できるように 支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入会し、10月26日より参加してい る。また、開設前には、法人外のグループホームに3日間 研修に参加させていただいた。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人からも聞き取りを行っている。また入居前に本人の生活歴や様子などセンター方式の用紙を用い情報を収集し、本人とコミュニケーションを持てるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を行い、家族様が不安に思っている事、困っている事の聞き取りをし、ご要望などにも添えるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込の際に、ショートの利用、デイサービスの利用などの状況も確認し、利用されてない方には、情報提供を行っている。また、他グループホームなどにも見学に行ってもらえることをお勧めしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般の家事など、それぞれに出来ることを、一緒に考え自ら無理なく取り組めるように、行ってもらっている。また、自ら家事にとりくんでもらえるように工夫している。(洗濯干し、たたむ、掃除、調理など)お誕生日会の夕食メニューは本人の希望の献立で作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様に面会来てもらいやすい雰囲気を作るように心がけ、受診などはご家族様にできるだけ言ってもらようにしている。また、面会時コミュニケーションをとり、一緒にケアの方向性をはなすようにしている。また、日頃から電話で連絡を取り、意向やケアの方向性を話し合い家族様が主体に介護に関わってもらえるように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と相談し、自宅に一緒に行ってもらうように働きかけたり、できるだけ、いろいろな方、お孫さん・友人・知人・親戚などに面会に来て頂けるようお願いしている。入院中の奥様の面会にスタッフと出かけたりすることもある。	できる限り関係が継続されるように努めている。各室に在宅で慣れ親しんだ家具や什器が置かれていた。	今後も同様に支援を続けてほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが得意な部分を活かし、お互いに助けあえるように声かけをしている。たの利用者と一緒に空間にいることの楽しさなどを感じていただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2/13に御利用者様、御逝去され契約終了の方がでられた。今後忍びの会を設けたり、家族会設立予定ですが、家族会にOBの参加の提案を考えています。広報紙の発行も継続して送付させて頂きたいと考えます。		

自己 評価	第 三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き出す努力を常にしている。コミュニケーションが難しかったり、自分の思いが話せない方には、御家族様から今までの生活歴や趣味・嗜好をセンター方式で聞き取り、カンファレンスなどを定期的に行い、本人本位のケアを行うようにしている	個々のケア記録には把握した内容が記されている。また、センター方式を用いた取り巻きや人間関係づくりを工夫されている。	利用者が表現できない意向を日々の生活の中から汲み取り職員間で共有しては。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を、家族・介護サービス関係者より収集している。また、家族様にはセンター方式のシートを使って、今までの生活歴や趣味・嗜好も詳しく収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で常に情報の共有を申し送りノートやカンファレンスを通してチームで把握している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の普段の生活の中から、望んでいること常に意識し、家族様との面会時等に意向の確認を行っている。スタッフや施設ナース・PTなどにも事例検討に参加してもらい、計画書に反映するようにしている。	利用者や家族、関係者、職員等と話し合い、介護計画作成に反映されている。3ヶ月毎の見直しも記録されている。	作成したプランを全職員と共有する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録に様子など記録している。また、カンファレンスなどで話し合い情報を共有し、ケア・介護計画書に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	見取りの可能性のある利用者の妻に家族だけでは、面会ができないが連れて行きたいという相談にたいして、病院までの送迎や面会の付き添いなどを行った。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店に買い物に出かける。地域の学校にお花見に出かけたり、ふれあい喫茶・地域の夏祭りに参加するなどし、安全に配慮しながらも、地域へ出かけて行っている。また、包括支援センターと共同で地域の野良猫の対応を民生委員・自治会に働きかけ安心して外に出かけられるように努めた。認知症サポーター研修なども共催で行うことを検討している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望があれば、入所前のかかりつけ医のままであるが、施設として地域の医院と連携をとり、かかりつけ医としてお願いし、往診または受診し、平素より相談しやすい関係を築いている。心療内科・皮膚科・眼科・歯科などの往診もお願いしている。	利用者、ご家族の望む医療の支援が行われている。施設看護師との連携も密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している特別養護老人ホームの看護師に利用者様の事は相談し、定期的に見てもらっている。相談によっては看護師よりの指示により、受診したり、また看護師によって処置をしてもらっている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、アセスメントシートを入院先に持参し、ADLや日々の様子、薬情を伝えている。また、退院時には、家族様と一緒にドクター看護師相談員と共に生活の問題点や現状について話し合い、退院に向けてかかりつけ医に相談したりし、準備をしている	医療機関との連携は適切に行われている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの指針を作るとともに、早い段階から家族様に望まれる医療行為の確認書をとったり、事業所としてできることなどを説明している。また、地域のドクター・かかりつけ医とも連携をとっている	重度化が予想される段階で終末期の方針が話し合われる。最後までその人らしくを配慮して、最近ホームで看取った方がおられる。	入居時に方針をきちんと話し合っておいては。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入植前に緊急時の対応の研修を受けている。また、急変時や夜間対応についてはマニュアルを作り対応がわかるようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを定期的に行い、職員には意識付けを行っている。緊急時の対応マニュアル・緊急持出し品リスト・災害時発生用の飲料水・食料など3日分の備蓄を併設施設6階倉庫に備えている。1/27西宮市全体で行った避難訓練に合わせて訓練を行い、防災無線などを聞きながら、対応した。施設法人として地域と災害時の連携協力の協定を勧めている。	職員への防災教育は行われている。(この1年で1回) 地域との協力体制は協議の予定の段階	地域との協力体制を早急にかためる。

自己 自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助する際には、お一人お一人に意向の確認の声掛けを行って、介助すようにしている。また、排せつ・入浴など同性介助が必要と思われる場合は対応するようにしている。	職員の入居者に対する言葉かけは自然体で優しい言葉使いが出来ている。	職員の笑顔とやさしさの継続を。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中、それぞれの趣味・嗜好を取り入れられるようにしている。また、食事や・おやつなど利用者様より希望を聞き、取り入れる工夫をしている。おふろは入る時間を決めず、ご本人と話し合い、意向に合わせている。散歩なども同様に意向に合わせて行けるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等、時間を決めていない。午前、午後、入りたいときに入れるようにしている。散歩など気分転換したいときもできる限り対応している。起床時間や食事時間などでもできるだけそれぞれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スカートがお好きな方には、日常の生活をスカートで過ごしてもらっている。行事などには、浴衣や普段と違う装いを提案の声かけをしている。理美容を家族様と相談し、定期的に利用できるようにしている。毎日の整髪、男性のひげ剃りなどにも留意している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食はスタッフと利用者様が一緒に作っている。食べやすい工夫をし、食事が楽しいものになるように心がけている。また、お誕生日には本人の食べたいものを伺い用意している。日常の食事の支度もなどはできる部分は一緒に行うようにしている。	利用者と職員が一緒に夕食作りをしている。週に1回はおやつも手作りしている。	調理にかかわれない人は台所の近くで、においや音、会話などに接しで上がる過程を楽しんでもらっては。職員も共にテーブルを囲み会話しながら楽しく食事する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や食事摂取料・水分摂取量などを個人記録で把握し、個別に、食事が進むように、本人の嗜好を考慮した食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアの声かけをし、義歯の方には義歯を外しうがい・歯磨きを必要な時行っている。必要な方には、歯磨きの仕上げを行っている。就寝前には義歯を外し洗浄剤に付けて、せいけつに保てるように支援している。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居真似のはいせつの状況や週間を把握し、排せつ間隔などをチェックシートなどを使い把握し、トイレへの声掛けを行っている。日中はできるだけ、トイレでの排せつを行うようにしている。	居室のすぐ近くにトイレがあり、声掛けや誘導がスムーズにできている。排泄の記録もある。	認知症の人の排便にともなう事柄をよく認識する。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に繊維質のものや根菜類などを取り入れるようにしている。夕食後に乳製品の摂取を行っている。また、水分は、一日最低1リットルは摂取してもらうようにしている。医療との連携も行っている。散歩や体操などの運動も取り入れている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心に配慮し、個浴・夫婦浴でくつろいで入浴できるようにしている。最低週2回は入浴できるように、毎日入浴の時間を決めてしまわないで、声掛けを行い入浴を行っている。また、利用者様によっては毎日入浴を行っている。月2回は、併設のデイサービスのお風呂を利用したり、季節によって菖蒲湯・ゆず湯など普段とは違う雰囲気を楽しんでもらっている。	入浴を楽しめる工夫がよくなされている。入浴日も決めないで適宜利用者の望むように入浴してもらっている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や消灯時間は決めていない。体調を考慮し、休息が必要と思われる方には休息が取れるような環境を整えている。また、日中逆転しがちな方には、できるだけ働きかけを行い、日中は活動してもらい、夜間良眠できるように働きかけを行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表で薬と必要な支援、薬情をスタッフが確認できるようにしている。また、服薬が変更した場合、情報の共有などスタッフ間の申し送りを行っている。併設施設ナースにも日々相談などしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味・嗜好を家族様から聞き取りを行い、それぞれの得意なことを活かせるように、生活の中に取り入れている。お茶会での着付け・習字教室・散髪などご本人の意向を取り入れている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ、地域に散歩に出かけるようにしている。地域ふれあい喫茶に出かけている。また、個別のケアプランに基づき、本人や家族様の希望を取り入れ、外出する機会を持つように取り組んでいる。	日常的に外出支援は行われている。家族とともに季節の行事も実施されている。地域の人々との協力体制はこれからの課題。	入居者の皆さんが興味と楽しみ、関心の持てる四季折々の行事計画で、家族も一緒に出かける計画を立てては。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・家族様の希望のある方に関しては、財布やお金を本人が管理している。希望があれば、買い物に出かけることもある。夏祭りや初詣などの際には、金銭の出し入れを自分でできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に年賀状や日常の手紙を書く機会を提案し、御家族様と相談し電話や手紙をできるだけしてもらっている。公衆電話から家族に電話することを支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	季節の花や果物などを飾ったりし、季節感を感じられるようにしている。夜間帯は、室内の光を少し暗くし、夜間であることがわかるように工夫している。リビングのテレビの音や各居室の湿度・温度の調整も注意をはらっている。	清潔な生活空間が保たれている。敷地内で栽培した花や季節に合った置物を飾り、快適な環境づくりに努めている。量のコーナーにコタツが備えてある。	もう少し生活感のある寛げる家庭の居間を想定してみても。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者少人数で和室やこたつ・リビングのソファ・食卓などで過ごしたり、そのひとのが気に入っているクッション・空間・場所など環境を整える心がけている。居室で一人でくつろぐ時間も大切にしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着くように、思い出の品や好みのものを持ち込んでもらっている。本人に落ち着くようにレイアウト・環境を作り上げてもらっている。	入居者の個性に合わせたインテリアに配慮している。家族と一緒に部屋の模様を考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居の際に家族様に情報収集として、センター方式の記入をもらい、それぞれのADLや習慣を把握するようにしている。自分の部屋がわかるように工夫している。日々の生活の中で個別の対応ができるように、スタッフ間で情報を共有し、定期的に事例検討を行い、リスクマネジメントを行っている。		